



まちづくり

国 福 産 教

プロジェクト

19

多文化共生

～多文化共生の地域社会づくり～

神奈川には、多岐にわたる国籍の外国籍県民等がくらししています。また、入管法の改正もあり、今後さらなる増加が見込まれます。そうした中で、外国籍県民等が抱える課題は教育や子育て、高齢化など多様化、複雑化しています。また、県内の大学などには多くの留学生が在籍しており、就職・生活・交流など留学生の様々なニーズへの対応も求められています。

そこで、外国籍県民等がくらしやすい環境づくり、神奈川県でくらし学ぶ留学生への支援、地域における多文化理解の推進などに取り組み、国籍にかかわらず、お互いが理解し合い、県民一人ひとりが生きがいを持って共に笑い、心豊かにくらすことができる多文化共生の地域社会づくりを進めます。



指標

「外国人と日本人が国籍、民族、文化の違いを理解し、認め合つてともに暮らすこと」を重要だと思ふ人の割合
(県民ニーズ調査)

2018年度実績
64.9%
▼
2022年度
70.0%

国内に就職した留学生数
(神奈川県内大学等在籍留学生調査)

2018年度実績
980人
▼
2022年度
1,710人



具体的な取組み

A 多文化理解の推進

- 国籍などの違いを越えて、多様性を理解し、一人ひとりが互いに認め合うことができる社会を実現するため、「あーすフェスタ」や「ベトナムフェスタ」など多文化共生関連イベントを実施するとともに、青少年のスポーツ交流事業など友好交流先との国際交流を推進します。
- 地域における多文化理解を推進するため、地球市民かながわプラザを中心とした学習機会や情報の提供を行います。
- 多様性を理解し、外国籍県民等の人権を尊重するため、県立学校及び公立小・中学校等における人権教育や、ヘイトスピーチ解消に向けた取組みを実施します。

KPI

多文化共生イベントの参加者の満足度
(県国際課調べ)

現状(2018)	2019	2020	2021	2022
69	72	75	78	80

地球市民かながわプラザの利用者数
(県国際課調べ)

現状(2018)	2019	2020	2021	2022
461,004	462,000	463,000	464,000	465,000

B 外国籍県民等も安心してくらす地域社会づくり

- 外国籍県民等も、言葉の壁などにより不便や疎外感を感じることなく、コミュニティの一員として共にくらす環境を整えるため、地域日本語教育の総合的な体制づくり、医療通訳、県立高校などにおける通訳支援や災害時における多言語支援などを実施します。
- 外国籍県民等が安心・安全に過ごすことができる環境をつくるため、県の多言語支援センターなどの相談窓口の運営や外国籍県民等のくらしを支援する人材の育成により、総合的な相談体制を整えます。

KPI

医療通訳実施率
(県国際課調べ)

現状(2018)	2019	2020	2021	2022
91.1	92.0	92.5	93.0	93.5

多言語支援センター対応件数
(県国際課調べ)

現状(2018)	2019	2020	2021	2022
2,860	3,045	3,230	3,415	3,600

C 外国人が活躍できる環境づくり

- 留学生が安心して学べる環境を整えるため、神奈川県に親しみを持つ国内外の外国人の方々及びその方々を支える人々の集まりである「かながわ国際ファンクラブ」を活用し、神奈川県ゆかりの外国人などのネットワーク化を推進します。また、「かながわ国際ファンクラブ」の拠点である「KANAFAN STATION」を活用し、大学・企業などと連携して、留学生へ就職・生活・交流などニーズに応じた支援を行います。
- 外国人が学び、活躍できる環境を整えるため、神奈川県の実績を生かして海外からの研修員を受け入れるとともに、日本語を母語としない方への県立高校進学に関する支援を実施します。

KPI

県内大学等在籍留学生数(総数)
(神奈川県内大学等在籍留学生調査)

現状(2018)	2019	2020	2021	2022
13,239	14,000	16,000	18,000	20,000

「かながわ国際ファンクラブ」会員数(総数)
(県国際課調べ)

現状(2018)	2019	2020	2021	2022
7,328	7,960	8,635	9,315	10,000



神奈川の戦略⑦

グローバル戦略の推進

社会・経済のグローバル化が加速する中、神奈川でくらす外国籍県民等や海外進出している県内企業は増加しており、神奈川と世界との結びつきはますます強まっています。

県ではこれまでも、企業の海外展開支援や外国企業の誘致などに取り組んできましたが、今後、神奈川の人口減少が見込まれる中、産業の国際競争力の強化やインバウンド消費の向上、外国人材の育成・活躍支援などにより県内経済を活性化していくことが期待されます。

こうしたことから、様々な分野における神奈川の魅力や先進的な取り組みを世界に強力に発信し、神奈川の強みを生かした積極的な国際展開を推進するとともに、神奈川と交流相手先の国・地域などの双方にとって、メリットのある交流を戦略的に進めます。

また、グローバル化に対応した人づくりや海外とのネットワークづくりを促進することで、神奈川の地域や経済の活性化につなげます。

さらに、入管法の改正により、今後一層外国籍県民等の増加が見込まれる中で、引き続き、多文化理解の推進などに取り組み、外国籍県民等もコミュニティの一員として活躍し、共に笑うことのできる多文化共生の地域社会づくりを進めます。

具体的な取り組み

神奈川の強みを生かした国際展開

- 県内経済の活性化を図るため、県内中小企業の海外展開支援と外国企業の誘致を進めます。
- 米国や欧州、アジアなど、海外のライフサイエンス産業の先進地域と連携し、最先端医療や未病関連分野の産業の国際展開を促進します。
- ラグビーワールドカップ2019™や東京2020大会を契機に神奈川の魅力を世界に向けて効果的にPRし、大会開催後も見据えた外国人観光客の誘致促進に取り組みます。
- インバウンドを意識した文化プログラムを展開し、世界に向けて神奈川の文化の魅力を発信するとともに、大会開催後もレガシーとして地域の活性化につなげていきます。

国際展開を支える人づくり・ネットワークづくり

- 英語による実践的コミュニケーション能力を育む取り組みや高校生の国際交流支援などのグローバル化に対応した教育を通じ、国際性豊かな人材を育成します。
- 世界保健機関(WHO)が推進する、高齢者に優しい地域づくりに向けた自治体の国際的なネットワーク「エイジフレンドリーシティ」や「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ[※](UHC)」の実現に向け、高齢化への対応などに関する取り組みを進めます。

※すべての人が適切な予防、治療、リハビリなどの保健医療サービスを、必要な時に支払い可能な費用で受けられる状態

- 県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科(ヘルスイノベーションスクール)において、国際社会で活躍でき、ヘルスケア分野における社会システムの革新を起こす人材の育成に取り組みます。
- 「かながわ国際ファンクラブ」を活用した留学生支援、友好交流先との国際交流の推進、海外からの研修員の受入れなどにより、人と人との交流を進め、人的ネットワークづくりを促進します。
- 経済連携協定に基づく外国人看護師・介護福祉士候補者の学習支援などの取り組みを進めます。

多文化共生社会の実現

- 国籍などの違いを越えて、多様性を理解し、一人ひとりが互いに認め合うことができる社会の実現をめざし、多文化理解を推進します。
- 外国籍県民等も、言葉の壁などにより不便や疎外感を感じることなく、安心してくらすことができる環境を整備します。

構成プロジェクト

プロジェクト名	構成施策名
プロジェクト1 未病	B 未病改善を支える社会環境づくり
プロジェクト2 医療	A 最先端医療の推進・最新技術の追求
プロジェクト6 産業振興	A 成長産業の創出・育成 B 企業誘致などによる産業集積 C 県内企業の活性化
プロジェクト7 観光	B 戦略的プロモーションの推進
プロジェクト14 学び・教育	A 生涯にわたる学びの推進
プロジェクト15 文化芸術	B 文化資源を活用した地域づくりの推進
プロジェクト16 スポーツ	C 大規模なスポーツイベントを盛り上げ、レガシーを創出・継承する取組み
プロジェクト17 雇用	C 外国人材の育成・活躍支援
プロジェクト19 多文化共生	A 多文化理解の推進 B 外国籍県民等も安心してくらす地域社会づくり C 外国人が活躍できる環境づくり